

草原のタカ チュウヒ 幌延

2023年10月21日(土) 14:00-15:30

幌延深地層研究センター国際交流施設 幌延町宮園町 1-8

主催：(公財)日本野鳥の会 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

開会

14:00

司会：長谷部 真 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク 事務局長)

・挨拶 浦 達也 (公財)日本野鳥の会 主任研究員)

講演

14:05-14:40

・草原のタカ・チュウヒとは

浦 達也 (公財)日本野鳥の会

14:40-15:15

・サロベツの自然とチュウヒ

長谷部真 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

お話

15:15-15:25

・幌延のサロベツ湿原と自然

稲垣 順子 (遊び研究所とんこり堂)

閉会 16:00

講演要旨

草原のタカ・チュウヒとは

(公財) 日本野鳥の会
主任研究員 浦 達也

和名：チュウヒ

英名：Eastern Marsh Harrier

学名：*Circus spilonotus*

分布：ロシア極東域や中国東北部、サハリンなどで繁殖し、東南アジアで越冬する。日本では北海道、本州や九州で局所的に少数が繁殖し、一部は留鳥である。国内では多くのものは冬鳥であり、主に本州以南に渡来する。

生息地：湿地や干拓地、湖沿岸、河川の岸辺などの広いヨシ原で繁殖している。ただし、サロベツ原野のチュウヒは笹原を好んで繁殖する。渡りの時期には河原や比較的狭い湿地にも現れる。冬期は全国各地のヨシ原などでみられるが、北日本では少ない。

分類：タカ目タカ科＝猛禽類

全長：♂480mm/♀582mm

体重：♂500-600g ♀700-850g

翼開長：1132-1372mm

採餌：両翼を浅いV字型に保つ滑翔と羽ばたきを繰り返しながら、風上に向かい低く飛んで地上の獲物を探す。風の強い日には停翔飛行も行なう。チュウヒの顔は平面的であり両眼視できる。また、顔盤は集音しやすくなっており、耳は大きいため、獲物を探すときには視覚だけでなく、聴覚も利用している。餌はネズミ類がもっとも多く、その他には小鳥、カエル、魚などを捕らえる。

繁殖について：

・繁殖期 4～8月

・抱卵・育雛 抱卵期間は約35日間である。抱卵中の雌は巣を離れることは少ないが、時折は抱卵交代が見られる。雄が餌を運んでくると雌は巣を離れて空中で受け取る（餌渡し）。育雛期間は約35日間である。ヒナは巣を離れてから何か所かを移動し、移動するたびに草を倒して擬似巣をつくる。巣立ってもしばらくは親に依存する生活を続ける。

・その他 求愛ディスプレイを行なう。繁殖期はつがいごとになわばりを持って分散する。排他行動はトビ、オオタカ、北海道ではオジロワシなどに対してみられる。

・保全：絶滅危惧IB類（環境省 2006年）、国内希少野生動植物種（環境省 2017年）

・個体数減少の要因：植生遷移による繁殖環境の消失、開発行為（含、太陽光発電）、カメラマンによる観察圧等

・他種との識別：繁殖期には、一瞬トビと見間違ふことがあるが、尾羽はM字型のトビとは違い、チュウヒは凸型である。また、トビは翼をV字型に保つ滑翔はしない。

サロベツの自然とチュウヒ

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

長谷部真

サロベツ湿原は日本で3番目に広い湿原で、高層湿原としては国内最大、また南北30 kmに渡る砂丘林と湖沼群があります。これらの環境は多くの貴重な生き物が生息し、重要な景観であるため、国立公園に指定されています。またサロベツ湿原は北海道とサハリンをつなぐ宗谷海峡に近いため、多くの渡り鳥が飛来することからラムサール条約、渡り鳥のフライウェイパートナーシップなどに登録されており、オジロワシ、オオワシ、タンチョウ、オオヒシクイ、マガン、日本ではサロベツでしか生息していないシマアオジなどの湿生の重要鳥類が多く生息します。

チュウヒはサロベツ周辺では4月から10月まで滞在する夏鳥で、主にササ原で繁殖し、河川や湖沼沿い・海岸草原・牧草地を利用します。国内で唯一湿地に繁殖するタカの仲間、絶滅が危惧されているため種の保存法で保護されています。サロベツ周辺はチュウヒの繁殖地として国内最大規模で2020年には57か所が確認されました。幌延町は2020年-2022年にかけて22-26か所で巣が確認され、国内で最も高密度にチュウヒが繁殖していることがわかりました。しかし、チュウヒの巣の3/4は国立公園などの保護区ではない場所にあり、他のワシタカ類と異なりササ原で繁殖するため、知らないうちに開発されるなどして攪乱が生じたり、繁殖地が失われることがありました。このため、私たちは繁殖期の早い段階でチュウヒの繁殖情報を調べ、開発事業者と情報共有することにより、配慮を促してきました。その結果、多くの事業者がチュウヒの繁殖に配慮してくれるようになり、開発行為による影響が低減され、開発とチュウヒとの共存が可能であることがわかりました。また、報告会の開催（環境省事業）やパンフレット・サロベツ湿原センターにおけるポスター展示・ぬいぐるみ展示等によりチュウヒの普及啓発に取り組んでいます。

今後はチュウヒの保全のために農家への情報共有と理解を進めるにより、地域理解の促進に取り組み、チュウヒよる町興しにつなげていきたいと思えます。また、チュウヒが経年的に繁殖利用している場所を購入しチュウヒの繁殖地を積極的に保護していくことも検討しています。